

アフガニスタン：“本当の危機は世界に忘れられてしまうことだ”

アフガニスタン大統領アシュラフ・ガニ氏は12月4日木曜日、ロンドンでの国際会議に参加し、今後もアフガニスタンの復興を支援してくれるよう国際社会に訴える。ガニ氏は9月に連立政権を樹立させたが、組閣はまだである。また、巨額の資金をつぎこみ多くの人命を奪った13年に及ぶアフガンでの軍事作戦は正しかったのか、NATO軍の撤退をきっかけに議論が起きている。イギリス政府は2024年までを「変革の10年」と位置付けており、このロンドン会合がアフガニスタンにとって改革への姿勢を見せる機会になると述べている。

NATO軍は最大規模であった2011年の14万人から、年末に12000人まで減少する。アフガン軍では既に多くの犠牲者が出ており、外国軍からの需要も減るため経済が停滞する見通しだ。しかし、多くの国際的なパートナーは13年間の行政の腐敗に幻滅している。大統領は変わったが、それにより長期の資金援助が保証されるかどうかは定かではない。アフガニスタンは現在、国家予算の3分の2を海外からの支援に頼っている。国際危機グループ (International Crisis Group) のスミス氏は、軍隊が撤退すると資金も撤退することを歴史が示しており、アフガニスタンにとって世界に忘れられることが本当の危機であると述べている。

本会合を前に市民社会による”Ayenda” (ダリ語で「未来」の意) サミットが開かれ、その中で日本国際ボランティアセンター・アフガニスタン事務所の総務であるサビルラ・メムラワル氏は「アフガニスタンの状況、その中でも特に治安はさらに悪化しており、人道支援資金は減少している。人道支援の活動家が自由に動けないことも問題だ」と述べている。



このサミットを主催したイギリス・アイルランドのアフン支援団体のネットワーク BAAG (British and Irish Agencies Afghanistan Group) によれば、その大半のメンバー団体

が脅迫状を受け取ったり、実際に何らかの脅威を受けたりしており、活動縮小に追い込まれている。

また、バーミヤン州で女性のシェルターの運営や暴力事件の訴えなどの活動をしているアフガン人女性は、女性と若者の権利のためにはグッドガバナンスが重要であると主張し、彼女の活動地であるバーミヤンでは女性の多くが自分の権利を知らず、知っていてもその権利行使には大きな困難が伴うと述べている。彼女は、ロンドン会合では、法の整備とそれへの女性のアクセスを重視すべきで、そのメカニズムは適切に国際社会によっても監視されるものでなければならない、と述べている。

「カブールではこう言います。『(女性が) 外に出たら、生きて帰って来られるかどうか分からない。』他の国では将来について考えるのですが、アフガニスタンでは常に生きるために苦勞しているのです。」3人の子を持つ母親の言葉である。